



基盤教育の教養科目（山形に学ぶ）の集中講義として山形県の最上地域で行われる「フィールドワーク・共生の森もがみ」における体験プログラムの様子

## 学生とその保護者の皆様へ

### ～学生が主体的に学べる大学を目指して～

山形大学は、「何よりも学生を大切に作る大学」とすることを目標に、教育及び学生支援に重点を置いた取組を推進しています。

### > 基盤教育プログラム

山形大学の基盤教育とは、大学に入学した後の1年目を中心に、教養教育や専門教育などを含めた4年間の学士課程（入学から卒業まで。医学部では6年間）の基盤となるような教育を行う課程のことです。将来、社会に出た時に、力強く豊かに生きることのできる力、すなわち「豊かな人間力」の基盤をつくることを目的とした、本学独自の教育カリキュラムです。

平成25年度は、基盤教育の一層の充実のため、フィールド活動や体験型授業の拡充に向けて検討を行いました。既存の導入科目「スタートアップセミナー」<sup>(\*)</sup>において学生用テキストを改訂し、アクティブラーニング型授業の充実を図ったほか、社会人基礎力の一層の向上を目的とした導入科目「アドバンスセミナー」<sup>(\*)</sup>を開講しました。

また、変化の激しい現代社会を生き抜くために、一人一人の社会的自立に向け、将来のキャリアについて考え、必要な基盤となる能力や態度を育てる共通科目「キャリアデザイン」を開講しました。

※「スタートアップセミナー」  
とは、入学当初の学生に大学  
教育や学生生活に慣れてもら  
うための科目であり、「アド  
バンスセミナー」はそれを  
補い、大学での学習、就職活  
動や社会人としての仕事に必  
要な能力を磨く実践的な科目

## ＞ 各学部・大学院の機能強化に向けて

山形大学では、各学部・大学院において、本学の強みや特色を生かし、発展させるべく、その機能強化に取り組んでいます。

平成25年度には、各学部・大学院において下記の取り組みが行われました。

| 学部       | 取り組みの内容  |
|----------|--|
| 人文学部     | ・学生の留学を奨励し、外国語の授業を強化した教育を実施するため、人間文化学科のコースを再編し、「グローバル文化学コース」を新設した。   |
| 地域教育文化学部 | ・地域での活動を通して大学で学んだ専門知識を実際に活用できる力を身につけるために、新たに「フィールドプロジェクト」を平成26年度から開講することとし、学部に専門委員会を設けて開講の準備を行った。  |
| 理学部      | ・次世代技術「プリントエレクトロニクス」実現に向けた産学連携組織「山形大学ナノメタルスクール」において、電子機器用の印刷配線技術の実用化及び銀ナノ微粒子の大量生産に向けた取り組みを推進した。併せて、科学技術振興機構から「低温焼成型の銀・銅系ナノ微粒子の製造とその応用技術」が「プリントエレクトロニクス用電極材料に関する特許群」に認定された。<br>・理学系大学院生の就業力を高めるため、開講しているキャリア教育に担当教授を配置し相談体制の整備を図るとともに、グループワークを通じてキャリア意識の醸成を図っている。                                 |
| 医学部      | ・山形県の地域医療の中核的機関であるとともに、予防医療やオーダーメイド医療等の開発に向けたゲノムコホート研究などの充実・強化に努めている。<br>・がん治療では、省エネ化・小型化を実現する新たな「重粒子線がん治療装置」の開発を東北広域がん治療ネットワークの構築などと併せて進めた。<br>・医学分野の研究基盤の有機的連携と、グローバル人材の育成のために、研究支援施設等を再編し「医学部メディカルサイエンス推進研究所」を設置した。<br>・高度な高齢化社会に対応し在宅医療体制に教育面で貢献する「医学部在宅医療・在宅看護教育センター」を設置し、在宅看護研修プログラムを開始した。 |
| 工学部      | ・有機エレクトロニクス研究センターにおいては、実用レベルのN型有機半導体開発に世界で初めて成功するなど、技術研究を飛躍的に推進させたほか、産学官が連携して研究開発に取り組む「有機エレクトロニクスイノベーションセンター」及び「蓄電デバイスセンター」の完成、「フロンティア有機システムイノベーションセンター」、「グリーンマテリアル加工研究所」の完成に向けて準備を進めるなど、先端的な研究の推進に向けてさらなる体制の整備を図った。   |
| 農学部      | ・在来作物をテーマに、食農ビジネス創出を目的とした在来作物実践講座「おしゃべりな畑」を開催し、「在来作物案内人」を認定した。<br>・経営と技術の基礎力・実践力の向上を目的とした「やまがた6次産業ビジネススクール」への支援を実施し、農業の6次産業化の推進に取り組んだ。   |

| 研究科     | 取り組みの内容   |
|---------|---|
| 教育実践研究科 | ・現在の学校現場のニーズに応えるため、平成26年度に、従来の2コース制から「学校力開発分野」「学習開発分野」「教科教育高度化分野」「特別支援教育分野」の4分野に組織替えすることとし、その準備を行った。<br>・喫緊の課題である特別支援教育分野の教員養成のため、平成26年度から特別支援学校教諭専修免許状を取得できるよう体制を整備した。 |

## ＞ 附属学校の取り組み

山形大学の附属学校は、幼稚園、小学校、中学校及び特別支援学校の四附属学校園により構成されており、附属学校教員と大学教員との共同研究を進めることで、実践的な教育研究を展開しています。

教員養成の質的向上を図るための教育実習では、教員を志望する学部学生の受け入れを毎年行っています。また、東北地方には2校しかない教職大学院（教育実践研究科）とも連携し、大学院生とその指導教員が協力した教育実習も展開しています。

さらに、四附属学校園の連携による一貫性の高い教育を行うための取り組みとして、合同研修や特別支援教育に関する連携事業も活発化しています。

## ＞ グローバル化への取り組み

山形大学では、国際社会との連携促進のため、国際交流の基本指針である「山形大学グローバル化のための基本方針」を平成22年度に策定しており、この方針に基づいて留学生の受入を促進するなど、大学の国際化に努めています。

平成25年度は新たに9大学との大学間交流協定を締結し、大学間交流協定は29ヶ国65機関、学部間交流協定は22ヶ国81機関となり、外国人留学生は、平成26年5月1日現在、25の国と地域から210人が学んでいます。

山形大学では、グローバルな学生交流、研究交流の拠点として、学術交流協定を締結している海外の拠点大学にサテライトオフィスを設置しています。平成25年度は、新たにガジャマダ大学（インドネシア）、カトリカ大学（ペルー）、ラトビア大学（ラトビア）にサテライトオフィスを設置し、ハノイ農業大学（ベトナム）、延辺大学（中国）、ジョモケニヤッタ農工大学（ケニア）と合わせて6サテライトとなりました。それらのサテライトオフィスには、国際交流担当教員が数ヶ月単位

### サテライトオフィス設置大学

|   | 大学（国）名            |
|---|-------------------|
| 1 | ハノイ農業大学（ベトナム）     |
| 2 | 延辺大学（中国）          |
| 3 | ジョモケニヤッタ農工大学（ケニア） |
| 4 | ガジャマダ大学（インドネシア）   |
| 5 | カトリカ大学（ペルー）       |
| 6 | ラトビア大学（ラトビア）      |



山形大学短期受入プログラムの一コマ  
参加国：ベトナム、中国、ケニア、  
インドネシア、ペルー  
期間：平成25年8月1日～10日

（上）母国及び大学について、グループを代表して英語でプレゼンテーション



（左）お互いのアイデンティティを尊重しつつ、ひとつのゴールに向かって討論したグループディスカッション



日本語チューター派遣プログラム派遣先にて  
 (左) ケニアの広大な大地に触れる (ジョモケニヤッタ農工大学) (右) 連日大盛況の日本語教室 (ハノイ農業大学)

で駐在し、本学の情報発信や現地と本学の学生・教員の交流や共同研究等のサポートを行っています。

また、留学生の派遣・受入を促進し、本学学生のグローバル意識や語学力向上のため、次のような取組を行っています。

・日本語チューター派遣プログラム

このプログラムは、サテライトオフィスにて開講されている「山形大学日本語教室」に本学学生を派遣し、現地の学生に日本語を教えることを通して、グローバル力・コミュニケーション力を習得することを目的としています。平成25年度は、ベトナム及びケニアに学生（29人）・職員（3人）を派遣しました。現地の受講生には、日本語を学ぶ機会、日本や山形の紹介、山形大学への留学情報を提供しています。

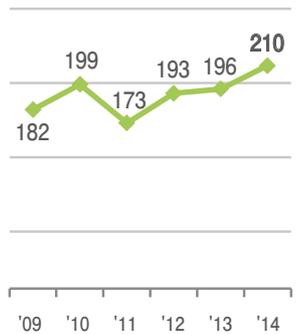
・山形大学短期受入れプログラム

このプログラムは、主にサテライトオフィスを設置した協定校より21名の留学生を山形大学に招待し、本学学生との共同合宿や日本文化・日本事情を紹介し、国際相互理解を深めることを目的としています。本学学生には、世界に目を向ける機会となり、留学生には、山形大学への留学を動機付けます。留学生のホームステイ先として地元の皆様にもご協力をいただくことで、地域と連携した国際交流を実施しています。

・英会話カフェ

本学学生の英会話力の向上や海外留学への動機づけを目的として、英語ネイティブスピーカーと少人数で気軽に英会話を楽しむ場を提供しています。

留学生数(人)  
 (各年5月1日現在)



※'11は東日本大震災の影響により減少しています。

教育に関するデータ



教育経費\*比率 (対業務費)



## > キャリアサポート

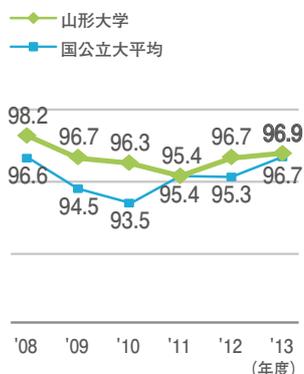
山形大学では充実した就職支援に加え、入学時からキャリア教育の授業科目を設けるなどし、早期から将来や進路を考えるきっかけ作りに努めています。

就職支援の場面においては、学生が努めるキャリアサポーターが活躍しています。学生に配布している「就活ハンドブック」を学生の目線で作成したり、企業訪問や当該企業の紹介冊子の作成企画等を通して後輩の就職活動をサポートしています。

また、インターンシップもさかんであり、今年度から通常のインターンシップに加え、1・2年生向けにも開講することで、地域の中小企業への理解や、早期からの職業意識の醸成に取り組んでいます。

加えて、地元企業社長、官公庁職員、山形大学のOB等を講師とするキャリア科目の開講、キャンパス毎に週1回開催している「内定獲得塾」、学長、役員らによる企業訪問、近隣企業とのアライアンスの構築などの取り組みもあり、平成26年3月卒業生の就職率は全国の国公立大学の平均を上回る96.9%となっております。

就職率 (%)



## > 奨学金の充実

「何よりも学生を大切にする大学」を目指して、山形大学は学生の修学支援にも力を入れており、本学独自の様々な奨学金制度を設けています。これにより、一般的によく知られている授業料免除や日本学生支援機構の奨学金制度以外にも様々な支援を受けることができます。

「YU Do Best奨学金」は学生が存分に勉学に励み、生活できる教育・研究環境を整備するために創設された本学独自の給付型奨学制度で、これまで80名が選出されています。また「山澤進奨学金」や「エリアキャンパスもがみ土田秀也奨学金」といった、地域への貢献に関連した給付型の支援制度も充実しています。一時的に学費の納付が困難な学生に対し貸与する「山形大学学生支援基金奨学金」も整えています。

本学では、引き続き社会情勢や経済情勢など状況に応じて柔軟な学生支援に努めてまいります。

授業料免除率 (%)



### (参考) 本学独自の主な奨学金制度

#### 「YU Do Best奨学金」

学部3年生(医学部医学科は5年生)を対象。返還義務のない給付奨学金(月額3万円)を2年間給付。毎年10名程度。

#### 「山澤進奨学金」～山形俊才育成プロジェクト～

返還義務のない給付奨学金(月額5万円)に加えて、本学では受給者の入学料・授業料を全額免除。卒業後4年間は山形で働くことが条件です。毎年新入生から6名(各学部1名)。

→ 4年間で総額約480万円(医学部医学科の場合、6年間で総額約710万円)

#### 「エリアキャンパスもがみ土田秀也奨学金」

山形県最上地区の学生を対象。返還義務のない給付奨学金(月額4万円)に加えて、本学では受給者の入学料・授業料を全額免除。毎年新入生から1名。

→ 4年間で総額約434万円(医学部医学科の場合、6年間で総額約637万円)

#### 「学生支援基金奨学金」

授業料等の支払いが一時的に困難な学生に、用途が学費納付の場合は上限30万円まで、生活費補填の場合は上限20万円まで貸与。H25実績は28名。